モンテカルロ殻模型計算による 中重核の構造の研究

東京大学原子核科学研究センター(CNS) 角田佑介

共同研究者:大塚孝治(理研仁科セ) 清水則孝(東大CNS) 本間道雄(会津大数理セ) 宇都野穣(原子力機構)

Motivation

変形共存の領域





Andreyev et al., Nature 405, 430 (2000)



Heyde et al., Rev. Mod. Phys. 83, 1467 (2011)

陽子、中性子の一方が<mark>閉殻</mark>に近い領域で 変形共存が見られる⇒<mark>殻構造</mark>との関係

Ni同位体(Z=28)の<u>原子核形状</u>を 中心に議論







Ni同位体(Z=28)の励起エネルギーとB(E2)



Cu isotopes (Z=29)

- Ni(Z=28)から増えた陽子の軌道の 有効一粒子エネルギー(ESPE)により 各状態のエネルギーが見積もれる
- 陽子の p_{3/2},f_{5/2} 軌道が N = 40からN = 50で入れ替わる (type I shell evolution)
- 計算した状態は 純粋な一粒子状態ではなく 実験と一致する







0

40

moments

of g.s.

Ν

50

Type I and Type II Shell Evolutions



T. Otsuka, YT, J. Phys. G: Nucl. Part. Phys. **43** 024009(2016)

• : holes

第二種殻進化と変形共存



異なる相が存在

T. Otsuka, YT, J. Phys. G: Nucl. Part. Phys. 43 024009(2016)

MCSMによる原子核形状の解析(T-plot)

Slater行列式

'T-plot' of 0⁺₁ state of ⁶⁸Ni (Z=28, N=40)

- ・ 殻模型計算の相互作用を 用いて、
 Constrained HFにより
 Potential energy surface
 (PES)を計算
- <u>点の位置:変形度</u> 射影前のMCSM基底の 四重極変形
- 点の面積:重要さ 射影後の基底と 波動関数との overlap probability

角運動量・パリティ射影

MCSM波動関数

 $D^{J\pi}$

п

MCSM基底











Ni同位体の形状の変化 0⁺1 states of ⁶⁸⁻⁷⁸Ni



prolate状態のエネルギーが下がり 極小点の間のバリアが下がる



γ-soft変形 (γ方向への大きな揺らぎ)

Ni同位体の形状の変化



⁶⁶Niの変形共存



実験グループとの共著論文: S. Leoni et al., PRL 118, 162502 (2017)

実験グループとの共同研究

Ni近傍の領域での共著論文

- ⁶⁸Ni S. Suchyta *et al.*, PRC **89**, 021301(R) (2014)
- ⁶⁸Ni F. Flavigny *et al.*, PRC **91**, 034310 (2015)
- ⁷⁰Ni C. J. Chiara *et al.*, PRC **91**, 044309 (2015)
- ^{80,82}Zn Y. Shiga *et al.*, PRC **93**, 024320 (2016)
- odd-A Mn C. Babcock et al., PLB 760, 387 (2016)
- odd-A Mn H. Heylen et al., PRC 94, 054321 (2016)
- ⁷⁰Ni, ⁷⁰Co A. I. Morales *et al.*, PLB **765**, 328 (2017)
- ⁶⁶Ni S. Leoni *et al.*, PRL **118**, 162502 (2017)
- •⁷⁷Cu E. Sahin *et al.*, PRL, accepted (2017) その他複数の共同研究が進行中

広い領域での系統的計算

- 若干の精度を犠牲にした より高速なMCSM計算により 核図表の広い領域を計算
- fitによる改良で
 広い領域の性質を再現できる
 予言力の高い相互作用を構築





広い領域での系統的計算



Zr同位体(Z=40)の形の相転移

T. Togashi, YT, T. Otsuka, N. Shimizu, PRL 117, 172502 (2016)

- ⁹⁸Zrから¹⁰⁰Zrで
 2+状態のエネルギーが
 急激に減少
- 球形相から変形相への 量子相転移と考えられる
- MCSM計算により 実験を再現し、 T-plotにより 原子核形状を解析した



Zr同位体での第二種殻進化

T. Togashi, YT, T. Otsuka, N. Shimizu, PRL 117, 172502 (2016)

⁹⁸Zr 0⁺1

200

 $Q_0 \,({\rm fm}^2$)

 $Q_2(\mathrm{fm}^2)$

200

- ・ ⁹⁸Zr 0⁺₂状態では 陽子がg_{9/2}に励起
- 中性子のESPEが変化し
 軌道間のギャップが縮まる
- 変形エネルギーを 得やすくなる
- ¹⁰⁰Zr 0⁺₁は⁹⁸Zr 0⁺₂と 類似した性質を示す



Sm同位体(Z=62) (preliminary)

- ¹⁴⁴Sm (N=82で魔法数)で球形
- 中性子数が増えると大きく変形
- Zr同位体と比べて、
 球形から変形へ連続的に変化



YT, T. Otsuka et al.



2+状態のQ moment



Sm同位体(Z=62) (preliminary)

YT, T. Otsuka et al.

- 模型空間 陽子: sdg, 0h_{11/2}, 1f_{7/2}, 2p_{3/2} 中性子: pfh, 0i_{13/2}, 1g_{9/2}, 2d_{5/2,} 3s_{1/2}
- Brown (PRL 85, 5300)の相互作用と V_{MU}相互作用(PRL 104, 012501)
 による二体力を組み合わせて計算
- 球形から変形への変化が 記述できている
- ^{148,150}Smで2⁺状態の
 励起エネルギーが実験より低いが Q momentは実験と合っている

2+状態の励起エネルギー



2⁺状態のQ moment



Summary

- pfg9d5空間でNi(Z=28)近傍の核種をMCSM計算で記述
- MCSMの特性を用いたT-plotによる原子核形状の解析
- 第二種 設進化の 概念を 用いた 変形共存の 説明
- Ni同位体のShape Evolutionと変形共存
- 理論計算に基づいた実験との共同研究
- 広い領域の核種の系統的計算(preliminary)
- Zr(Z=40), Sm(Z=62)など、
 他の領域での<u>変形</u>の解明を目指す